

令和3年度第7回 横浜市外郭団体等経営向上委員会会議録

日 時	令和3年10月7日（木）[13:00～17:00]
開催場所	横浜市庁舎18階 共用会議室 みなと4
出席者	鴨志田委員長、田邊委員、治田委員、戸田委員、碓井委員
欠席者	なし
開催形態	公開（傍聴者なし）
議 題	<p>[議題1] 公益財団法人横浜市資源循環公社</p> <p>[議題2] 横浜市場冷蔵株式会社</p> <p>[議題3] 公益財団法人横浜市消費者協会</p> <p>[議題4] 一般社団法人横浜みなとみらい21</p> <p>[議題5] 株式会社横浜シーサイドライン</p> <p>[議題6] 公益財団法人帆船日本丸記念財団</p> <p>[議題7] 横浜ベイサイドマリーナ株式会社</p> <p>[議題8] 横浜ウォーター株式会社</p> <p>[議題9] 横浜交通開発株式会社</p> <p>[議題10] 公益財団法人横浜市シルバー人材センター</p> <p>[議題11] 公益財団法人三溪園保勝会</p> <p>[議題12] 公益財団法人横浜企業経営支援財団</p> <p>[議題13] 横浜市住宅供給公社</p>
決定事項	<ul style="list-style-type: none"> ・「公益財団法人横浜市資源循環公社」は暫定として、 総合評価分類を「事業進捗・環境変化等に留意」 団体経営の方向性を「引き続き経営の向上に取り組む団体」とした。 ・「横浜市場冷蔵株式会社」は暫定として、 総合評価分類を「事業進捗・環境変化等に留意」とした。 ・「公益財団法人横浜市消費者協会」は暫定として、 総合評価分類を「事業進捗・環境変化等に留意」 団体経営の方向性を「引き続き経営の向上に取り組む団体」とした。 ・「一般社団法人横浜みなとみらい21」は暫定として、 総合評価分類を「事業進捗・環境変化等に留意」 団体経営の方向性を「引き続き経営の向上に取り組む団体」とした。 ・「株式会社横浜シーサイドライン」は暫定として、 総合評価分類を「事業進捗・環境変化等に留意」 団体経営の方向性を「引き続き経営の向上に取り組む団体」とした。 ・「公益財団法人帆船日本丸記念財団」は暫定として、 総合評価分類を「事業進捗・環境変化等に留意」 団体経営の方向性を「引き続き経営の向上に取り組む団体」とした。 ・「横浜ベイサイドマリーナ株式会社」は暫定として、 総合評価分類を「事業進捗・環境変化等に留意」 団体経営の方向性を「事業の整理・重点化等に取り組む団体」とした。 ・「横浜ウォーター株式会社」は暫定として、 総合評価分類を「事業進捗・環境変化等に留意」 団体経営の方向性を「引き続き経営の向上に取り組む団体」とした。

	<ul style="list-style-type: none"> ・「横浜交通開発株式会社」は暫定として、総合評価分類を「事業進捗・環境変化等に留意」 団体経営の方向性を「引き続き経営の向上に取り組む団体」とした。 ・「公益財団法人横浜市シルバー人材センター」は暫定として、総合評価分類を「事業進捗・環境変化等に留意」 団体経営の方向性を「引き続き経営の向上に取り組む団体」とした。
議 事	<p>[議題1] 公益財団法人横浜市資源循環公社</p> <p>1 委員会からの確認事項に対する回答等について (事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員会からの確認事項に対する所管局・団体の回答について説明 <p>2 委員からの意見等 (田邊委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公益的使命の達成に向け、市所管局と一枚岩で事業に取り組んでいる団体だと思う。 ・委員会からの確認事項2は、収益事業であった貨物コンテナ用シャーシ置き場貸付事業が終了したため、新たな収益事業で収益を上げてほしいという意図の質問だが、その意図に沿った回答になっていないと感じる。 ・しかし、遊休資産を保有している団体ではないため、収益事業を新たにつくるのは容易でないことは理解できる。 ・近年の社会環境変化を踏まえ、SDGs や食品ロスの削減に繋がる取組を実施してほしい。 ・コロナ禍により、協約目標に対する未達成の項目があるため、暫定評価として「事業進捗・環境変化等に留意」を提案する。また、SDGs の取組で貢献してもらいたいという附帯意見をつけてはどうか。 <p>→全委員同意</p> <p>3 暫定評価</p> <p><総合評価> 事業進捗・環境変化等に留意 <団体経営の方向性> 引き続き経営の向上に取り組む団体</p>
	<p>[議題2] 横浜市場冷蔵株式会社</p> <p>1 委員会からの確認事項に対する回答等について (事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員会からの確認事項に対する所管局・団体の回答について説明 <p>2 委員からの意見等 (戸田委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市保有株式の売却については、新たに公募するのか。 <p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存株主による買い増しのほか、公募による売却を検討していると聞いている。 <p>(田邊委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・株式に譲渡制限がないことを以前委員会で指摘したが、改善されている。

	<ul style="list-style-type: none"> ・市の出資率を低減する意義が、環境変化によって変わってきていると思う。 ・コロナ禍により、協約目標に対するやや遅れの項目があること、株式の売却にあたっては、市と団体で十分に協議した上で進める必要があることから、暫定評価として「事業進捗・環境変化等に留意」を提案する。 <p>→全委員同意</p> <p>3 暫定評価 <総合評価>事業進捗・環境変化等に留意</p>
	<p>[議題3] 公益財団法人横浜市消費者協会</p> <p>1 委員会からの確認事項に対する回答等について (事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員会からの確認事項に対する所管局・団体の回答について説明 <p>2 委員からの意見等 (鴨志田委員長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・確認事項に対する回答について、特に追加意見等はない。 <p>(田邊委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍により、協約目標に「やや遅れ」「遅れ」がある。暫定評価として「事業進捗・環境変化等に留意」を提案する。 <p>→全委員同意</p> <p>3 暫定評価 <総合評価>事業進捗・環境変化等に留意 <団体経営の方向性>引き続き経営の向上に取り組む団体</p>
	<p>[議題4] 一般社団法人横浜みなとみらい21</p> <p>1 委員会からの確認事項に対する回答等について (事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員会からの確認事項に対する所管局・団体の回答について説明 <p>2 委員からの意見等 (戸田委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みなとみらい21地区の未契約の土地も残りわずか。誘致の段階とは異なる取組が必要。地区の企業や大学を繋げるような、新たなエリアマネジメントの取組を検討してもらいたい。 <p>(田邊委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みなとみらい21地区における研究・産業分野の発展に向けて、当団体がコーディネート役を担うなど、エリアマネジメントの取組を更に推進してもらいたい。 ・また、みなとみらい21地区に関わる都市整備局や経済局といった市の関係局が横断的に連携し、団体と共に当地区の街づくりに取り組んでほしい。 ・暫定評価として「事業進捗・環境変化等に留意」を提案する。関係局と連携しながら、産学連携のコーディネート役として街づくりに取り組んでほしいことを附帯意見として加えたい。

	<p>→全委員同意</p> <p>3 暫定評価</p> <p><総合評価>事業進捗・環境変化等に留意</p> <p><団体経営の方向性>引き続き経営の向上に取り組む団体</p>
	<p>[議題5] 株式会社横浜シーサイドライン</p> <p>1 委員会からの確認事項に対する回答等について</p> <p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員会からの確認事項に対する所管局・団体の回答について説明 <p>2 委員からの意見等</p> <p>(碓井委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新杉田駅の逆走事故による傷害への補償の見通しについては、保険等により団体財務に対する大きな影響はないことは理解した。 ・収支は黒字だが、本業での利益は赤字となっている。特別利益によるところが大きいようだが、この理由は何か。 <p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別利益は、事故原因となった車両システム関係会社からの固定資産受贈益等によるもの。 <p>(田邊委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協約目標については、すべて達成しており、事故後の対応も行っている。(仮称)上瀬谷ラインについては、市としっかり協議を行うと記載がある。 ・協約目標は達成しているが、上瀬谷ラインについては、市としっかり協議を進めていくべきであること、本業での利益は赤字となっているため、財務状況については引き続き注視してもらいたいことを附帯意見として付け加えたうえで、暫定評価として「事業進捗・環境変化等に留意」を提案する。 <p>→全委員同意</p> <p>3 暫定評価</p> <p><総合評価>事業進捗・環境変化等に留意</p> <p><団体経営の方向性>引き続き経営の向上に取り組む団体</p>
	<p>[議題6] 公益財団法人帆船日本丸記念財団</p> <p>1 委員会からの確認事項に対する回答等について</p> <p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員会からの確認事項に対する所管局・団体の回答について説明 <p>2 委員からの意見等</p> <p>(田邊委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協約目標は達成しているが、コロナの影響による有料入場者数の減少など注視すべき課題がある。そのため来年度策定する協約では、団体経営の向上に資する目標の設定が必要である。 <p>(治田委員)</p>

	<p>・今年度、策定する単年度の協約の「公益的使命の達成に向けた取組」のうち「①横浜みなと博物館リニューアル」については、横浜みなと博物館をリニューアルすること自体が目標になっている。来年度策定する協約では、団体の経営上の課題の解決につながる目標を設定してほしい。</p> <p>(田邊委員)</p> <p>・団体の公益的使命には、日本丸の保存や博物館等の管理運営を通じた海事思想の普及が含まれる。そのため、博物館のリニューアルが公益的使命の達成に資するという考え方もある。一方で、賑わいづくりも目指すのであれば、その使命の寄与に向けた目標の検討が必要である。</p> <p>・協約目標は達成しているが、注視すべき課題があるため、暫定評価として「事業進捗・環境変化等に留意」を提案する。</p> <p>→全委員同意</p> <p>3 暫定評価</p> <p><総合評価> 事業進捗・環境変化等に留意</p> <p><団体経営の方向性> 引き続き経営の向上に取り組む団体</p>
	<p>[議題7] 横浜ベイサイドマリーナ株式会社</p> <p>1 委員会からの確認事項に対する回答等について</p> <p>(事務局)</p> <p>・委員会からの確認事項に対する所管局・団体の回答について説明</p> <p>2 委員からの意見等</p> <p>(戸田委員)</p> <p>・この団体は、収益をあげ、市へ株主配当を出す等の財政貢献が出来るポテンシャルがある。しかし、委員会からの確認事項に対する回答を見る限りは、市所管局としてはその点について、検討は進めていないように感じる。</p> <p>(田邊委員)</p> <p>・市の財政状況が厳しさを増す中、団体にはより強い意志をもって財政貢献に取り組んでほしい。そのためにも、市所管局とよく検討してほしい。</p> <p>・協約目標に未達成があることから、また、市財政の貢献について、市所管局とよく検討してほしいという附帯意見をつけた上で「事業進捗・環境変化等に留意」を提案する。</p> <p>→全委員同意</p> <p>3 暫定評価</p> <p><総合評価> 事業進捗・環境変化等に留意</p> <p><団体経営の方向性> 事業の整理・重点化等に取り組む団体</p>
	<p>[議題8] 横浜ウォーター株式会社</p> <p>1 委員会からの確認事項に対する回答等について</p> <p>(事務局)</p> <p>・委員会からの確認事項に対する所管局・団体の回答について説明</p>

	<p>2 委員からの意見等 (田邊委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横浜市で培ってきた技術やノウハウの蓄積と、そのノウハウを活用した地方や海外の水道事業に対する社会貢献が役割であり、収益につながりづらいところもあると思う。 ・水道事業を通じた社会貢献に取り組むとともに、収益確保と市への財政貢献の視点を持ちながら事業を推進してほしい。 ・暫定評価として「事業進捗・環境変化等に留意」を提案し、附帯意見として収益の確保と市への還元を記すこととする。 <p>→全委員同意</p> <p>3 暫定評価 <総合評価> 事業進捗・環境変化等に留意 <団体経営の方向性> 引き続き経営の向上に取り組む団体</p>
	<p>[議題9] 横浜交通開発株式会社</p> <p>1 委員会からの確認事項に対する回答等について (事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員会からの確認事項に対する所管局・団体からの回答について説明 <p>2 委員からの意見等 (治田委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新協約の財務に関する取組に「営業利益の確保」といった目標を掲げているが、収益確保のための未利用資産の積極的な活用についても検討していただきたい。 <p>(田邊委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・暫定評価は「事業進捗・環境変化等に留意」を提案し、附帯意見として、安定的な収入の確保に向けて。未利用資産の活用などを含めて、積極的に検討してもらいたい旨を記載する。 <p>→全委員同意</p> <p>3 暫定評価 <総合評価> 事業進捗・環境変化等に留意 <団体経営の方向性> 引き続き経営の向上に取り組む団体</p>
	<p>[議題10] 公益財団法人横浜市シルバー人材センター</p> <p>1 委員会からの確認事項に対する回答等について (事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員会からの確認事項に対する所管局・団体の回答について説明 <p>2 委員からの意見等 (戸田委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・団塊の世代が現在の会員のボリュームゾーンとなっている。今後、この世代が脱退していくことも考えられるため、それらを踏まえた環境変化にも留意しながら、団体経営を考える必要がある。

	<p>(治田委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シルバー人材センターをより活用するための調査研究などが始まっている。 ・現状では、制度の枠組みの中で何ができるのかという視点となっており、市が独自に取り組むことが難しい。 <p>(田邊委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境変化が起こることを認識しながら、なかなか対策が打てない状況となっている。市所管局が経営向上にもっと関与し、例えば市からの受託を現状より徹底的に増やすのか、民間からの受託を増やすように努力するのか、明確な方向性を示す必要があるのではないか。 ・需要と供給のミスマッチをできるだけ減らすということが一つの方向性だろう。 ・シルバー層に、働く意欲を持ってもらえるような仕組みづくりが必要である。 ・コロナ禍の影響もあり、協約目標に対する未達成の項目があるため、暫定評価として「事業進捗・環境変化等に留意」を提案する。 <p>→全委員同意</p> <p>3 暫定評価</p> <p><総合評価>事業進捗・環境変化等に留意</p> <p><団体経営の方向性>引き続き経営の向上に取り組む団体</p>
	<p>[議題11] 公益財団法人三溪園保勝会</p> <p>1 委員会からの確認事項に対する回答等について</p> <p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員会からの確認事項に対する所管局・団体の回答について説明 <p>2 委員からの意見等</p> <p>(田邊委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・変更協約の目標について、当委員会からの指摘を踏まえ、有料入園者数を追加した内容となっており問題ないと思う。 ・同じく変更協約において、コロナ禍による環境の変化から取組を一部削除していることについては理解できる。 <p>※暫定評価については令和3年度第3回横浜市経営向上委員会（令和3年9月14日開催）から変更なし。</p>
	<p>[議題12] 公益財団法人横浜企業経営支援財団</p> <p>1 委員会からの確認事項に対する回答等について</p> <p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月14日の委員会において主に2点の意見をいただいた。 ・1点目が、(1) 公益的使命の達成に向けた取組の①利用者満足度の維持向上と有益な情報の発信の中で、利用者の満足度に加えて有料の経営コンサルティングと有料化に関する目標を盛り込んでほしいという意見。これを受け、所管課と団体では現時点で目標に盛り込むことは難しいが、今後の課題としてしっかり捉えていきたいとのこと。アフターコロナを見据え、経営コンサルティング事業のさらなる拡充など、伴走型支援により企業の成長、促進を図っていくという文言となっている。

	<p>主要目標に向けた具体的取組にも、同じような文言を追加している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2点目は、同じく（1）公益的使命の達成に向けた取組の②企業価値向上のための経営計画策定支援について、支援によって企業価値が上がったことを判断できるような指標を具体的に載せてほしいとの意見。所管課と団体では、具体的な数値指標が難しいため、今後の取組として検討したいとのこと。継続したフォローアップにより収益性等の向上につながる好事例を増やし成果の把握に努めるという文言を追加している。 <p>2 委員からの意見等 （治田委員）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2点目については、数値目標にしてほしかったが、検討し、文言を追加したことは理解した。 <p>※暫定評価については令和3年度第3回横浜市経営向上委員会（令和3年9月14日開催）から変更なし。</p>
	<p>[議題13] 横浜市住宅供給公社</p> <p>1 委員会からの確認事項に対する回答等について （事務局）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月14日の委員会において主に2点の意見をいただいた。 ・1点目は、昨今の社会環境変化に伴い、団体の公益的使命を再確認してほしいという意見。これを受け、所管課と団体では新協約の1（2）「設立以降の環境の変化等」、（3）「上記（1）・（2）を踏まえた今後の公益的使命」に文言を追加した。 ・2点目は、新協約の（1）公益的使命の達成に向けた取組の①住宅確保要配慮者の居住の安定確保にある「市営住宅定期募集による当選者辞退住戸の有効活用」について、目標値が90%以上/年となっているが、100%を目指すべきというご意見。所管課と団体では、入居決定の制度上、100%とすることができず、目標値の見直しは難しいとのこと。ただし、これまでの入居率は80%台にとどまっており、これまでよりも高い入居率を目指していきたいとのこと。 <p>2 委員からの意見等 （田邊委員）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでよりも高い入居率を目指すとのことで理解した。入居決定の方法を工夫するなど、100%を目指すことができないか引き続き検討してほしい。 <p>※暫定評価については令和3年度第3回横浜市経営向上委員会（令和3年9月14日開催）から変更なし。</p>
資料	<p>資料1：総合評価シート</p> <p>資料2：協約等（素案） ※「協約等」策定団体のみ</p> <p>資料3：変更協約等（素案） ※該当団体のみ</p> <p>資料4：協約変更説明書 ※該当団体のみ</p> <p>資料5：現協約の考え方 ※該当団体のみ</p> <p>資料6：委員会からの確認事項</p>

